

II 特別シリーズII

科学技術  
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第181回

東邦大学の活動報告

田中耕一郎

(東邦大学医学部  
東洋医学研究室准教授)

中国から大学教員招聘、日本の  
東洋医学等について理解深める

2018年8月27日から9月2日の間、中国青海省チベット医薬学会所属の大学教員5名を招へい致しました。今回の目的はチベット医学の教員の方々に、日本の東洋医学の現状を知って頂くことと、チベット医学の概要や薬物についての意見交換を行いながら、相互の理解を深め、今後の研究活動にも繋げていくことにあります。

日本側としては、日本において伝統医学が臨床、また、研究上どのような位置づけにあるのかを知ってもらうために、プログラム内容を企画しました。都内の大学病院で東洋医学の講座を有する東邦大学、および慶応大学の訪問や、鍼灸医学については東邦大学や鍼灸師の育成機関である神奈川衛生学園専門学校東洋医療総合学科にて、鍼灸の教育、臨床の現状を紹介しました。漢方薬の研究の実際を紹介するため、東邦大学薬学部生薬学教室、そして漢方薬学に力を入れている横浜薬科大学薬学部を訪問しました。

東邦大学医学部では東洋医学研究室が独立部門として設置されています。東洋医学研究室は、大学附属病院の本院である大森病院に



東邦大学医学部正門にて

漢方と鍼灸の外來を有し、師が日々診療に携わっています。オリエンテーションでは中国からの訪問団に歓迎の挨拶に始まり、東洋医学研究室より、日本の東洋

プログラム

1日目	羽田空港到着
2日目	オリエンテーション、医学部東洋医学科(漢方・鍼灸)臨床の現状紹介 チベット医学から中国医学との違い(日本側、招聘側から)、学部長表敬訪問、大学病院視察、歓迎交流会 講義:日本の医療と日本における漢方医学に関する講義
3日目	薬学部生薬学教室、薬用植物園視察 基礎研究と漢方外來での臨床研究の現在についてディスカッション
4日目	神奈川衛生学園専門学校 東洋医療総合学科を訪問、日本における鍼灸の現状を紹介 ディスカッション(チベットと日本の施術に関する治療法の講義と議論) 横浜薬科大学薬学部を訪問(中医学との違いや鉱物薬についての講義、ディスカッション) 日中大学フェア&フォーラム
5日目	東邦大学医学部 臨床各科視察、心臓血管外科、総合診療内科視察 慶応大学医学部漢方医学センター視察
6日目	日本科学未来館訪問 薬日本堂漢方ミュージアム・ツムラ講演会(漢方の歴史、現状、可能性)
7日目	意見交換会・振り返り、修了式、離日

医学の現状、東邦大学における臨床・教育・研究の現状を講演しました。チベット医薬学会からは、チベット医学の基礎理論に関する講義があり、伝統を重んじ、忠実に継承している様子が伝わってきました。  
大森病院では受付業務、救急、特別室、PET、患者用図書室、心臓血管外科、東洋医学科などを紹介しました。訪問団の教員の中には病院施設の管理部門の所属の方もいて、外來患者数の多さに対して、長い列に並ぶこともなく、速やかに手続きが進んでいく様子に関心を持っておられました。中国では医師の職位、専門性により診察料も違い、診察し



慶應義塾大学医学部漢方医学センターにて



東邦大学医療センター大森病院病院長の表敬訪問



横浜薬科大学薬学部にて



東邦大学薬学部生薬学研究室教員メンバーと

今後の課題としては、中国通訳は適宜つけたものの、日本語や英語での直接のコミュニケーションが多くなる日本側の教員にとつて不十分で、専門的な内容によつて十分な議論できなかったことです。しかしながら、このような貴重な機会が、科学技術振興機構のさくらサイエンスプランによつて実現したことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

日本の夏の高温多湿な気候は、高山地帯に住むチベットの方々にはかなりきついものであったと思われませんが、幸いメンバー全員が体調を崩すことなく、プログラムを終える事が出来ました。日中のハードな予定にも関わらず、夕方以降も観光などをスムーズにされていました。

た患者数により個々の医師にインセンティブが与えられます。日本では国民皆保険制度のもと、医師の診察料は一律であり、システムも異なります。東洋医学科の紹介とともに、現代医学の最先端の部門である心臓血管外科では身体の負担の少ない手術法など最近のトピックスについて実際の画像を交えて観て頂きました。

慶応大学では「日本における漢方医学の特徴」について講演を行っていただきました。また、開設間もない新病院を見学しました。神奈川衛生学園専門学校東洋医療総合学科では日本の鍼灸の臨床、教育の現状(中国では漢方と鍼灸は同一施設で教育が行われている。)の講演と施設案内がありました。特に図書館にはチベット医学の蔵書も見られ、訪問団は聖典にあたる四部医典のチベット語版が日本にもあることに気持ちよく動かされたよ

うで、しきりに目を閉じて拝まれました。また、東洋医学の研究の実情を紹介するため、東邦大学医学部薬理学講座、東邦大学薬学部生薬学講座、横浜薬科大学薬学部を訪問し、研究概略に関する講義を受けました。東邦大学薬学部では、生薬学講座と薬用植物園薬剤師教育(調剤実習、バイタルサインの取り方の実習など)を紹介しました。研究のみでなく、今後の薬剤師の病院における役割などにも触れる内容となりました。

横浜薬科大学薬学部は漢方の研究に力を入れていて、中国からの教員も所属しています。同学部では日本の漢方エキス製剤の中で、同名で成分に相違がみられる製剤に関する講義があり、チベット医薬学会からは、鉱物薬の加工と使用に関する紹介がありました。金属を薬物として特殊な加工をして使用する技術は、日本側にとっては非常に新鮮に感じられ、そこにチベットの伝統薬学の強みがあると思われました。ただ研究面については、チベットの薬剤の調査が生薬数も非常に多く、加工法も多岐に富んでいるために、具体的な科学的検証に落としにくいことには課題が残りました。